



資料1 ナショナル・スタンダード表紙



資料2 小学校1年作文のページ

3 ナショナル・カリキュラムのパフォーマンス・スタンダードを見て

ホストファミリーにナショナル・カリキュラムのパフォーマンス・スタンダードを見せてもらった。特徴としては、カラーの冊子で、具体的に各学年終了時にどのような姿であるべきかが記入されており、具体的にその実例がいくつか写真で載せてあった。以下にその実例をあげてみる。

資料2の英文の一部を紹介したい。

小学校1年

ライティング基準2：目的や結果を書く

作文を書く：

できごとを書く、お話を作る

小学校1年では主として自分自身の経験や知識を基にして作文を書こうとします。彼らは自分でお話を作ったりするほかに、それまでに読んで聞かされたお話から表現を借りたりそれを作り直したりしてお話を作ったりもします。彼らの作るお話は徐々に長く、詳しく、わかりやすく、連続性をもって書かれていくようになります。

この学年の終わりまでには、小学1年生が、次のようなことに留意して、自分でお話を作ったり自分の行ったできごとをお話にしたりすることができるようになることを期待している。

連続したできごとのどこから書き始めるかを自分で決めていることがわかる。

読者が2つ以上の連続したできごとを書いたお話（創作文であれ、書き直した文であれ）を容易に理解できる。

作文にあった絵や図を用いることができる。

次のような書く技術を用いることができる。・・・会話文を使う。場所や時間を表す言葉を使う。「おわり」「この日のことを忘れない」などお話の終わりを示す言葉を使う。（以下、省略）

このような記述の後、「土曜日に」という生徒の作文が写真で載せてある。以下、その写真と原文を示す。（ ）内は正しい単語として活字で示してあった。また、その横にはこの作文の評価が書かれている。